

技術懇談会ニュース

2013年1月15日号

東京高専技術懇談会発行

年頭にあたって

技術懇談会会長 大田吉彦



新年あけましておめでとうございます。

平素は東京高専および技術懇談会の教育事業、産学連携事業、地域事業にご理解とご協力をいただき有難うございます。技術懇談会も会員企業が100社を超える組織となりました。本年もさらに東京高専ならびに地域の発展に寄与したいと思っております。

昨年は京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞しました。日本にとって非常によろこばしいことでした。またテレビや新聞で知るだけですが人柄も素晴らしいと思っております。「研究者じみていない」、「マラソンを趣味とするスポーツマンである」、「自ら研究費集めに奔走する」、「医者としての道をあきらめた過去」教授のどこを見ても感激します。これからの研究者、技術者像を示していると思っております。なんとなく高専の育てる人材の理想像と重なりました。新聞によると受賞式の次の朝、記者の今年(2012年)を漢字一文字で表してほしいとの要求に「驚」と答えたそうです。その意味は「研究内容で予想と違う成果がいくつか得られて驚き、ノーベル賞受賞もまさに驚き」とのことだったそうです。

さて、物づくりに携わる企業にとっては昨年を何といえましょうか。ふりかえてみますと先行きに不透明感をともなった低迷に明け暮れた年でなかったかと思いません。製造業の景況感を示す指標としてPMI(製造業購買担当者景気指数)という指標がありますが円高の影響でしょうか日本は昨年4月以来下降傾向にあり、米国、中国、ユーロ圏に比べて不振がきわだっています。日本の製造業が広範囲にわたって苦戦していた様子が分かります。大手企業も高い国際競争力を誇ってきた日本の電子部品や家電業界も過去最悪の赤字を計上し、韓国のサムソン、台湾の鴻海などの軍門に下ったのは残念なことであります。現在リチウムイオン電池産業が日本発で世界に広がっています。これは日本の素材メーカーが電池の材料の研究、技術開発についての長年の豊富な蓄積をもっているからであります。しかし過去の開発成果のみに頼っていたら、この分野でも韓国、中国に追いつかれるのは時間の問題でありま

す。かつて、太陽電池の黎明期に世界をリードした日本企業も現在ではその面影もありません。この轍をふまないことを願うのみです。2008年のリーマンショックを機に日本の製造業の海外移転が進み、過去27年間生産額世界1位であった日本の工作機械も、2009年には中国が1位となっています。性能面ではまだ優れているとはいえ、台湾系企業のレベルもあがってきているとのことであります。これに備えて、オークマ、森精機、牧野フライスなどは国内工場の増強、再編にとりくんでいます。鉄鋼においては新日鉄と住金の合併、自動車業界の豊田のフォードやBMWとの提携など、自動車そのものもガソリンエンジンからモーターとのハイブリッド化など、日本の製造業を牽引する大手企業の組織も、技術も製品も、変化しています。また日常製品をみてもいつのまにか携帯電話からスマートフォンに変わりました。とくに通信関係は、地道ではありますが、大きく変わっています。まさに変化一色であります。変化できない分野は海外企業にとって代わるのは明らかであります。現在は企業も個人も変化に強いこと、変化に対応できる柔軟性があること、あるいは変化を好機ととらえることなどが必要なのかもしれません。

企業が変化にたいして柔軟性をもつためにはいろいろな分野の技術陣をかかえることが必要かもしれませんが一般には不可能であります。このためには技術陣の柔軟性が求められます。そのためには基礎技術が重要であります。基礎的な技術知識があれば変化にも対応でき容易に新しい分野の技術もマスターします。個人としては自分自身を多角化できます。技術懇談会ではいろいろな機会をつくり技術者の再教育に努力したいと思います。

最近ボーイング社の787機のクレーム問題がクローズドアップされています。画期的な新型機で空運業会の改革に欠かせない機種だそうです。新技術のかたまりであり、多くの日本企業も関わっているようですがいろいろ指摘されています。とかく変化するとき検討不足によるクレームが発生しがちであります。クレームは場合によると企業の存続に影響を及ぼす結果を招きます。技術者の安全に対する教育も必要と思っております。技術懇談会でも検討したいとおもいます。

本年も匠塾、公開事業、異業種交流会、見学会、講演会、懇親会等を計画し会員企業及び技術者の技術向上に寄与したいと思いますのでご協力お願いします。また東京高専には多くの優れた専門の先生方がおり共同研究、技術相談等もできます。おおいに利用していただきたいと思っております。

本年もよろしく願います。

事務局から

大型補正予算による景気浮揚を願っています。本年もよろしくお願い致します。